

2019年度第3四半期決算説明会(2020年2月6日開催)

主な質疑応答の内容(要旨)

※ 説明会開催日(2020年2月6日)時点の情報に基づく内容です

Q. パワーの通期見通しは受注、売上収益に変更がない一方、事業利益だけが上方修正されています。この背景を教えてください。

A. 南アフリカプロジェクトに係る仲裁の和解を受け、会計処理によるプラス影響が生じています。一方、航空エンジン事業関連の引当を計上しており^(※)、これらのプラス、マイナスを考慮した結果として、事業利益のみを200億円上方修正しました。これらの要因を除くと、若干の変化はありながらも、おおむね期首計画どおりに進捗しています。

※ ロールスロイス社製Trent1000エンジン不適合関連の対応

Q. インダストリー&社会基盤の事業利益通期見通しを500億円下方修正していますが、修正幅がやや大きい印象です。売上減少以外の要因はありますか？

A. 量産品とエンジニアリング事業で売上が減少しています。特に量産品は、売上のボリュームによって大きく利益が変動します。売上減少以外の要因もまったくないわけではありませんが、主な要因はやはり量産品の売上減少です。

Q. SpaceJetの減損処理の背景、型式証明(TC)取得の遅延が見込まれる理由を教えてください。

A. SpaceJet関連の会計処理は、事業の全体計画を前提に行っています。今般の量産初号機納入の遅れにより、型式証明(TC)取得にかかる費用が増加すること、また、M90のTCを最大限活かすことで開発期間の短縮と費用の削減を想定していたM100についても、投下資金や開発時期が見通しにくくなったことなどから、今般、SpaceJet関連資産をほぼすべて減損処理することとしました。TC取得が遅れる見込みとなった直接の要因としては、最終試験機の完成がずれ込んだことが大きく影響していますが、その背景として、安全性に関する検討に相応の時間を要していることが挙げられます。航空機は安全第一です。機体としての安全性確保のために、新たな観点から設計変更等の対策を施したことが、今回の遅延の理由の一つです。

以上